名古屋大学博物館報告
Bull. Nagoya Univ. Museum
No. 39, 57–65, 2024
Accepted: 19 January 2024
DOI: 10.18999/bulnum.039.06

スポット展示「名大博　野外観察園でみられる 牧野ゆかりの植物」

Short-term Exhibition “Plants Related to Dr. Makino Tomitaro in Nagoya University Museum Botanical Garden”

宇治原 妃美子（UJIHARA Kimiko）[1)]・西田 佐知子（NISHIDA Sachiko）[1)]・
吉野 奈津子（YOSHINO Natsuko）[2)]

1）名古屋大学博物館
2）名古屋大学全学技術センター

464-8601　名古屋市千種区不老町　名古屋大学博物館
Nagoya University Museum, Nagoya University, Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya, 464-8601, Japan

1．はじめに

本稿は，名古屋大学博物館エントランスコーナーにおいて開催されたスポット展示「名大博野外観察園でみられる 牧野ゆかりの植物」の記録（図1）である．

2023年の春から夏にかけて，植物学者・牧野富太郎（1862–1957）をモデルにしたドラマが人気を博した．このことをよい機会とし，牧野にゆかりのある植物で，当館の野外観察園でも見られるものの植物画や標本などを，スポット展という形で紹介した．

2．展示開催の概要

会期：2022年10月3日（火）～2023年11月25日（土）
会場：名古屋大学博物館エントランスコーナー
主催：名古屋大学博物館
協力者：加藤 優太（名古屋大学大学院生命農学研究科植物生産科学専攻研究員），山田 栄利子（名古屋大学博物館友の会ボタニカルアートサークル講師／ボタニカルアートはなびら）

図1　スポット展示「名大博　野外観察園でみられる 牧野ゆかりの植物」のようす．

3．展示物

本スポット展は，来館者が気軽に閲覧できると考えられる，エントランスコーナーに展示した．牧野富太郎と，野外観察園の植物の紹介をするにあたり，野外観察園担当の吉野が植物写真や植物標本を用意し，西田が牧野についての文献を調べ，展示紹介パネルの原稿を作成した．宇治原が展示レイアウトや展示パネルデザインを行なった．

準備を進めていくにあたり，牧野の付けた学名が現在も使われているのかどうかを，西田が念入りに調べる必要があった．牧野に関する解説や年表の作成は田中（2023）を参考にした．

展示開設パネルや展示標本

ごあいさつ

A：パネル「草木の精」牧野富太郎の一生

B：パネル 名古屋大学野外観察園

C：パネル 博物館野外観察園　牧野ゆかりの植物

D：写真パネル 野外観察園で見られる牧野ゆかりの植物写真

E：植物標本

F：牧野関連書籍

G：山田栄利子氏による牧野ゆかりの植物ボタニカルアート

H：胴乱

牧野富太郎の関連書籍は名古屋大学博物館に資料として保管されていた「植物学雑誌（復刻版，第四巻），植物研究雑誌（第一巻第一号の表紙と第一巻第三号牧野によるキンポウゲの報告），牧野富太郎著「牧野新日本植物図鑑」北隆館，牧野富太郎著「学生版　牧野日本植物図鑑」北隆館　1974年（初版）と1988年（24版），牧野富太郎著「趣味の植物採集」三省堂　1935年，牧野富太郎著「植物一日一題」東洋書館　1953年，牧野富太郎著「牧野植物一家言」北隆館　1956年や，来館者が気軽に閲覧できるようにテーブルに「牧野富太郎植物画集」高知県立牧野植物園を用意した．

チラシデザインには，牧野富太郎の似顔絵と，山田栄利子氏によるボタニカルアートも入れ，親しみやすいものとした（図2）．

図2　スポット展チラシ．

ごあいさつ

今年の春から夏にかけて，牧野富太郎をモデルにしたドラマが人気を博しました．このことをよい機会とし，牧野にゆかりのある植物で，当館の野外観察園でも見られるものの植物画や標本などを，スポット展という形で紹介します．

実際の牧野の人生はドラマとは異なる部分もたくさんありますが，牧野の人生が植物への愛や植物学への情熱で彩られていたことは間違いありません．一方，牧野は一生を通して約1400の学名をつけたといわれていますが，当館の野外観察園で牧野ゆかりの植物を探すと，意外に少ないというのが実際のところです．

その理由などを含め，スポット展に少し足を止めていただき，牧野富太郎や野外観察園の植物に興味をもっていただけたら幸いです．

名古屋大学博物館長　吉田英一

展示パネルには，野外観察園の紹介も入れ，本展示を閲覧した来館者に野外観察園にも足を運んでもらえる機会となるようにした．

A：パネル「草木の精」牧野富太郎の一生

牧野富太郎は，日本の植物学を語るうえで欠かせない人物です．日本の植物の多くが海外の研究者によって明らかにされていく中で，日本人による植物分類学の立ち上げに大きく貢献した一人といえます．

彼は高知県で生まれ，小学校を自分で退学し，それ以降，公的な教育は受けていません．しかし，東京大学に出入りを許され，日本各地の植物を精力的に研究します．また，多数の精密な植物画を作成し，のちには植物図鑑の刊行まで成し遂げました．人生の後半では各地の植物同好会の人たちと山野を歩き，地元の植物好きを激励しつつ教育しました．植物や人を愛し，植物や人に愛された一生と言えましょう．

一方，彼は後進の植物学者に大きな宿題を残しました．彼の植物標本の整理です．彼は5万点を超える標本を採ったといわれています．植物の標本には，それをいつどこで採ったのかをラベルに記すことが重要です．しかし，彼の残した標本にはほとんどラベルがなく，植物名も書かれていなかったそうです．そのため，標本を作るとき使った新聞に書かれた産地情報や日付を元に整理票を作り，様々な植物研究者に標本を送って植物名を調べてもらうという作業が残されました．1951年から始まった牧野の標本整理が最終的に完了したのは，2021年だったそうです．

牧野富太郎の略年表（年齢は数え年）

1862年		4月24日　土佐国（現在の高知県）に生まれる
1865年	4歳	父　佐平死去
1867年	6歳	母　久寿死去
1884年	23歳	東京大学理学部植物学教室に出入りを許される
1887年	26歳	「植物学雑誌」に分類学の処女論文「日本産ひるむしろ属」を発表
1893年	32歳	帝国大学理科大学より植物学標本整理・植物採集を委嘱され，後に助手となる
1899年	38歳	「新撰日本植物図説」の出版開始

1900年　39歳「大日本植物志」の刊行開始
1912年　51歳　東京帝国大学理科大学講師となる（～1939年）
1916年　55歳「植物研究雑誌」を創刊
1927年　66歳　理学博士号を授与される
1940年　79歳「牧野日本植物図鑑」（北隆館）出版
1951年　90歳　第一回文化功労者
1957年　96歳　1月18日　永眠

（田中伸幸著「牧野富太郎の植物学」から抜粋・改変）

B：パネル　名古屋大学野外観察園

名古屋大学博物館の野外観察園は，東山キャンパスの南部に位置する4320 m^2の緑地です．教養部生物学教室の実験圃場として1963年に造成され，研究・教育用の植物が栽培されてきましたが，2003年度から博物館が管理・運営を行っています．

現在，園には温室内の約200種を含む，およそ800種の植物が生育しています．

栽培された植物のほか，風や鳥が運んできた植物もたくさん見られます．また，これらの植物が昆虫やキツツキなどを招き，様々な生物の住み家として機能しています．

野外観察園入り口付近にあるセミナーハウス2階では，随時，展示などを行っています．また，春や秋には見学会なども開催しています．

C：パネル　博物館野外観察園　牧野ゆかりの植物

牧野富太郎が発表した学名は約1400といわれ，その学名が今でも使われている日本産植物は約300種もあるそうです．しかし，野外観察園では，牧野が新種発表した植物をあまり見ることができません．それはなぜでしょうか？

生物の学名を記載し，その類縁関係を考える分類学という学問は，主に西洋で発達しました．そして，国内でよく見られる植物の多くは，牧野が研究を始める以前に，日本の植物を研究した外国人によって新種発表されてしまっていたのです．

ですので，牧野が新種発表したものは，国内でも限られた場所にしか見られない植物などが多いのです．逆にいえば，牧野は国内の様々な場所できめ細かな調査を行ったからこそ，外国人が多くの植物を新種発表したあとでも，たくさんの新種を発表することができたのでした．一方，野外観察園では，国内の限られた場所にあるような植物を栽培展示することは難しく，牧野の発表した植物を見かけることはあまりできないのです．

それでも，牧野が学名を発表した植物や，牧野が幼少時に愛した植物バイカオウレンなど，野外観察園では牧野ゆかりの植物をちらほら見かけることができます．植物を愛し研究した牧野に思いを馳せながら，野外観察園を散策してみませんか？野外観察園は，月～金曜日の10–16時に開園しています（年末年始や夏季休業などを除く）．

D：写真パネル　野外観察園で見られる牧野ゆかりの植物写真

植物写真は，以下を掲載した（図3）．

・チャラン	センリョウ科	*Chloranthus spicatus* (Thunb.) Makino
・オオボウシバナ	ツユクサ科	*Commelina communis* L. var. *hortensis* Makino
・コブナクサ	イネ科	*Arthraxon hispidus* (Thunb.) Makino

図3　植物写真パネル.

・コメナモミ	キク科	*Sigesbeckia glabrescens* (Makino) Makino
・オオタニワタリ	チャセンシダ科	*Asplenium antiquum* Makino
・ヨウラクラン	ラン科	*Oberonia japonica* (Maxim.) Makino
・ハトムギ	イネ科	*Coix lacryma-jobi* L. var. *ma-yuen* (Rom. Caill.) Stapf
・ヤマネコノメソウ	ユキノシタ科	*Chrysosplenium japonicum* (Maxim.) Makino
・シロヤマブキ	バラ科	*Rhodotypos scandens* (Thunb.) Makino
・センダン	センダン科	*Melia azedarach* L.*
・アマチャ	アジサイ科	*Hydrangea serrata* (Thunb.) Ser. var. *thunbergii* (Siebold) H. Ohba*
・テンジクスゲ	カヤツリグサ科	Carex phyllocephala T. Koyama*

*現在は牧野の学名がつかわれていないもの.

また，植物名の見方についても解説をいれた．オオボウジバナには，加藤による花の断面顕微鏡写真も掲載した.

E：植物標本

植物標本は，以下のものを展示した（図4）.

・シロヤマブキ	バラ科	*Rhodotypos scandens* (Thunb.) Makino
・キンモクセイ	モクセイ科	*Osmanthus fragrans* Lour. var. *aurantiacus* Makino
・ヒメウズ	キンポウゲ科	*Semiaquilegia adoxoides* (DC.) Makino

図4　植物標本.

F：牧野関連書籍　（図5）

・植物学雑誌（復刻版，第四巻）

1887年に発行が開始された，日本でも有数の歴史を持つ学術雑誌です．世界に先駆けて発見されたイチョウの精子に関する報告や，南方熊楠による粘菌の目録など，日本の植物学における重要な研究成果を多数掲載してきました．牧野も初期のころは多数の報告を行っています．

5巻目から英名をThe Botanical Magazineとしていましたが，イギリスの同名の雑誌と区別するため，The Botanical Magazine, Tokyoと呼ばれました．Journal of Plant Researchという名前に変わったものの，日本植物学会の学会誌として，今も刊行が続いています．

展示しているのは第四巻に牧野が書いた，ウナギツカミに関する報告です．

・植物研究雑誌（第一巻第一号の表紙と第一巻第三号牧野によるキンポウゲの報告）

1916年に牧野富太郎が創刊した学術雑誌です．牧野は1933年まで編集を担当し，自身も多

図5　牧野関連書籍.

数の文章を掲載しています．表紙の雑誌名を飾る絵も，牧野によるものです．

牧野の自費出版で始まった刊行ですが，経済的に行き詰まった際，医薬品会社を経営していた津村重舎（つむらじゅうしゃ）が支援の手をさしのべました．今でも株式会社ツムラが発行を引き継いでいます．牧野の後も，日本の植物学を代表する研究者らによって編集が続けられ，2016年には創刊100周年を迎えました．

・牧野富太郎著 「牧野新日本植物図鑑」 北隆館

初版は1951年．展示しているのは1975年29刷の版で，前川文夫・原寛・津山尚が編集しています．牧野の名前が付いた図鑑の中でも，菌類や海藻類などを含んだ大作．学名に使われるラテン語の解説なども載っています．

・牧野富太郎著「学生版　牧野日本植物図鑑」北隆館　1974年（初版）と1988年（24版）

「牧野日本植物図鑑」は，学生版，原色，オリジナル普及版など，いろいろな版が発行されています．これは，持ち運びなどに便利な版として出版されました．2020年にも「新学生版」が発売されています．

なお，「牧野日本植物図鑑」（1940）とその増補版（1956）は，高知県立牧野植物園のウェブサイトから全ページを見ることができます．

・牧野富太郎著「趣味の植物採集」三省堂　1935年

植物の採集の仕方や標本の作り方が書いてあるほか，キノコや粘菌などの標本の作り方が書いてあります．また，日本の植物発見についての簡単な歴史や植物標本にまつわる逸話や心得まで書いてあり，趣味で植物標本を行う人への指南書となっています．本中には採集旅行の写真なども入っており，当時の採集の風情をうかがうことができます．

（以下，2冊まとめて紹介）

・牧野富太郎著「植物一日一題」東洋書館　1953年

・牧野富太郎著「牧野植物一家言」北隆館　1956年

牧野がさまざまな植物について随筆を書いた本です．牧野は全国の植物愛好家とともに各地を歩き，その際に自分の持つ植物の知識を披露したといいます．この2冊は，そんな牧野の植物の知識や植物への思いなどを垣間見ることのできる本となっています．

「牧野植物一家言」の題字は，94歳の牧野が書いたものだそうです．

・牧野富太郎著「趣味の植物採集」三省堂　1936年（3版）

植物の採集の仕方や標本の作り方が書いてあるほか，キノコや粘菌などの標本の作り方が書いてあります．また，日本の植物発見についての簡単な歴史や植物標本にまつわる逸話や心得まで書いてあり，趣味で植物標本を行う人への指南書となっています．本中には採集旅行の写真なども入っており，当時の採集の風情をうかがうことができます．

図6　山田栄利子氏によるボタニカルアート作品.

図7　胴乱

G：山田栄利子氏による牧野ゆかりの植物　ボタニカルアート

名古屋大学博物館友の会 ボタニカルアートサークル講師（2023年8月～）の山田栄利子氏によるボタニカルアートを展示した（図6）．なお，バイカオウレンの絵はチラシにも掲載している．

H：胴乱

展示品は牧野富太郎とは関係のない物品だが，牧野の活躍した時代には欠かせない道具であったため，博物館が所蔵しているものを展示した（図7）．キャプションは以下のとおりである．

植物を採集したとき，植物が潰れてしまったり折れてしまわないように，昔は胴乱と呼ばれる，金属製の手提げ箱に入れて持ち歩きました．

牧野は、中が2室に分かれている独自の胴乱を考案し，業者から販売させていたようです．ここに展示してある胴乱は，残念ながら牧野式ではありません．名古屋大学にいた研究者が昔使っていた品です．

図8　邑田 仁氏　講演会の様子.

4．関連講演会

山田栄利子からの提案により，邑田仁（東京大学大学院理学系研究科附属植物園　客員共同研究員）による講演会「牧野富太郎と植物分類学」を2023年12月15日（金）に名古屋大学博物館講義室にて開催した（図8）.（主催：ボタニカルアートはなびら　協力：名古屋大学博物館）スポット展示の期間後であったため，展示パネルなどは，講義室に掲示し，講演会参加者に閲覧できるようにした.

引用文献

田中 伸幸（2010）*牧野富太郎の植物学（NHK出版新書696）*，NHK出版，262p.